

## SPECIAL REPORT

## 生産現場からみた酪農のさまざまな役割と多面的な価値

.....

昨年 10 月 28 日から 11 月 1 日に横浜で開催された国際酪農連盟ワールドデイリーサミットでは、「酪農のさまざまな役割と多面的な価値について生産現場からの視点で議論を深める」をテーマとするパネルディスカッションが行われた。

## 1. 座長(名古屋大学 生源寺眞一氏)による論点整理

10 月 30 日に開催された酪農政策・経済特別講演会のセッション 3 では、酪農関係者 7 名が登壇し、次の 4 つの論点を念頭においてパネルディスカッションが行われた。

### (1) 酪農理解の醸成

第 1 の論点は、地域社会に良いかたちで認知される酪農経営であるために必要なことは何か、あるいは地域社会とどのように対話を進めるべきかである。収益性はむしろ大切であるが、地域社会との関係では、とくに環境保全の面で持続性を備えた酪農経営が重視されることが考えられる。その際に必要な生産技術や経営マネジメントのポイントは何か。

### (2) 消費者との関係改善

第 2 の論点は、現代の消費者の期待をどのように受け止め、どのように応えていくべきかである。安全性をはじめとして、消費者に対する情報発信のあり方が問われている。また、酪農経営が乳製品の加工・販売を行うことは、一面では消費者に近い領域にビジネスのウイングを拡大する意味を持つが、その意義とは何か。

### (3) 酪農の持続性向上

第 3 の論点は、酪農の持続性についてである。とくに、持続性を支える要素のひとつに、危機的な状況や不確実性の高まりに対して、酪農の復元力・回復力を確保することがある。自然災害の頻発、乳製品市場や飼料穀物市場の振れ幅の拡大、あるいは酪農政策の転換といった事態に対処するうえで大切なことは何か。

### (4) 職業としての価値向上

論点 4 の論点は、酪農の価値との関わりで、職業と

しての酪農経営、働く場としての酪農経営の持ち味とは何かである。あるいは、ファミリー・ビジネスの強さと克服すべき課題という切り口から、次世代の経営者や従業員を確保するために必要なことは何か。

## 2. パネラーの意見

### (1) 酪農理解の醸成について

①オーストラリアでは干ばつの発生を契機に、農業における水資源利用の在り方が地域社会の問題として浮上した。これにともない、地域住民の酪農経営に対する見方(評価)も変化し、酪農家と地域住民との間で意見の違いが顕在化した。

②酪農経営は、牧場によって地域社会から隔離されており、牧場内の活動に対する地域住民の関心が高まっている。酪農家は、地域社会との軋轢を緩和する方法を模索しているが、この課題解決には酪農家同士の連携が不可欠である。また、酪農に対する地域住民の理解を醸成するためには、その存在価値を示す科学的根拠が必要である。

③市場の要請に応えつつ、酪農経営を成功に導くには、生乳の品質管理が重要で、それを遵

守してこそプロと言える。また、酪農経営のプロとしては、牧場を開放し、衛生的な生産環境や適正な糞尿管理の実態を地域住民や消費者にアピールする必要もある。このような取り組みに参加する酪農家を増やしていくことが求められている。

④市民への牧場開放はトラブル発生のリスクをとまうが、英国では、私有地である牧場を開放することが、酪農に対する市民の理解を深めることに貢献している。また、雇用の場が少ないウェールズでは、牧場の従業員を確保することは比較的容易であるが、都会での生活で疲弊した若者が、牧場での労働を通じて自信を回復することも少なくない。

⑤日本では、経営規模の拡大にともなう労働力不足の問題に直面している酪農家が多い中、作業労働の合理化を図り、教育ファーム活動、牧場開放、牛乳・乳

製品製造などに取り組む酪農家も増えている。これらの取り組みは、酪農の理解醸成や国産乳製品の消費拡大に貢献している。牧場体験者の酪農に対する評価は明らかに変わってきたことを実感している。当初、おいしい牛乳・乳製品は欲しいが、牛の臭いや鳴き声は好きになれないという牧場体験者が多かった。しかし、酪農の存在自体が見直されてきた。かつて苦情の集中砲火を浴びせられた経験をもつ東京都練馬区に唯一残っている酪農家は、「練馬の宝」とまで称されるようになった。

## (2) 消費者との関係改善について

①ドイツでは国内で生産される乳製品の約半分が輸出されるが、輸入も多い。とくに、チーズでこの傾向が強い。消費者のニーズは多様化しており、国内の酪農乳業は消費者がどのような製品を望んでいるのかを再考する必要性が高まっている。

②日本の酪農家は、テレビや新聞というメディアを通じて、酪農経営や牛乳乳製品を紹介し、国内に酪農が存在する意義をアピールしている。この活動効果は徐々に広がっている。

③オーストラリア酪農は、海外市場を対象とする活動も、国内市場と同じように展開している。海外の消費者も、乳業工場や牧場を訪問することがあり、とくに動物福祉の観点から、生乳生産現場の実態に関心が高まっている。

## (3) 酪農の持続性向上について

①EUでは、CAP（共通農業政策）改革、とくに2015年3月のクォータ制度廃止後の生乳市場の状況、生乳需給調整対策、酪農経営への影響がどうなるのかが不透明である。これらの見通しが立たない状況の下、酪農協（乳業）の機能を見直し、流通業など強大なバイイングパワーへの対抗力を強化したい。

②韓国ではFTAの締結が推進され、貿易自由化対象国が増加することは避けられない状況にある。当面は、国産生乳の飲用乳需要を確保することが課題であるが、国内市場が縮小したら海外市場に活路を見出すしかない。

③日本の教育ファーム活動は、酪農にとっても大きなメリットがある。小学生の時に教育ファームを訪れた経験のある子供たちの中から、中学校の職業体験カリキュラムに組み込まれた酪農体験プログラムを選択する学生が増加している。

④酪農経営の収益性と持続性を高める観点から、牧

場施設の近代化を図り、糞尿の土壌還元による循環農法を実践している。

## (4) 職業としての価値向上について

①第一世代の経営者として酪農産業のすばらしい発展過程を経験し、自らの経営目標を達成することができた。

②乳製品の供給過剰問題が大きくなった時期に酪農経営に参入し、多くの苦難も経験してきたが、地域社会の発展に貢献できたと自負している。今後は、補助金なしでも存続できる酪農経営を確立したい。

③10年前に酪農経営に参画したが、酪農は魅力的で、すばらしい産業である。

④酪農は高度で多様な経営スキルが要求される産業であり、後継者を確保するため、酪農関係者自らが農業高校など後継者育成機関を支援する必要がある。

⑤韓国では、酪農は3K（きつい、汚い、危険）職業と評価されており、支援者も減少することが懸念される。酪農が多面的機能を発揮して、このような問題を克服することを期待している。

## 3. 座長(イギリス農業者連盟・酪農部会長 マンセル・レイモンド氏)による総括

パネルディスカッションの座長総括では、酪農の多面的な価値を高め、酪農がさまざまな役割を果たすための課題が以下の5点に集約された。

①酪農を事業として成功に導くこと

②環境問題、後継者問題などを克服し、酪農の持続性を高めること

③酪農の理解醸成のために消費者、とくに次世代の消費者を啓蒙すること

④生乳と乳製品の品質を保持するために積極的に技術革新すること

⑤適度な競争を通じて酪農の発展を促進すること